

廣＝日本では広の略字ですが、中国の簡体字では

「广」を充てています。広州は广州と表記します

あまりにも酷(ひど)い略字の横行で 4000 年の漢字歴史が泣いているように私には見えます。

以降は次回をお楽しみに。

編集後記

○今回は8月のお盆に合わせて帰省した家族に先祖のことを語った田中康之氏に登場していただきました。高齢にも関わらず健筆に感謝して居ます。当先史古代研究会での出会いが何かの奇遇を感じます。

○山田良三氏の2回目の連作も「力」が入りました。樋口俊介氏の四国遠路も土佐の「修行の道場」が終り、次は伊予に入ります。

○「日本語で生きよう」は中学生を対象にしたエッセイ風の論文です。原稿用紙 120 枚になりました。3回のシリーズでお届けします。

○次の例会は 10 月 8 日(水)13 時 30 分から友愛センターで開催します。講師は地元小学校で郷土史を分かり易い授業をなさいました、中西厚会員に「上道(かみつみち)の物語」と、丸谷憲二会員に「草ヶ部大廻り小廻り山城の考察 古代迎賓館説」をテーマに多彩な写真を駆使して報告いただきます。お楽しみに。

○当会は例会を各月に開催(8 月は休み)し、主に会員の事例報告を行なって居ます。“きび考”は年 2 回発行し寄稿文を随時募集して居ます。今回は田中さんから初投稿を戴きました。会員は例会参加者を通じて、こちらも随時入会できます。会費は年 2000 円です。

“きび考” 第 10 号

2014(平成 26)年 9 月 31 日発行

発行 先史古代研究会 会長 丸谷憲二
事務局 702-8002 岡山県岡山市中区桑野 504-1
山崎泰二方

電話＝086-276-6654 FAX=086-276-2241
メール＝senshi@bosaisystem.co.jp(事務局)

編集委員 山崎泰二(事務局長兼編集委員長)
井上秀男 延原勝志 樋口俊介
濱手英之 丸谷憲二(会長)